

宮津市の観光・宿泊税導入に 関するアンケート調査結果

広報みやづ2025年12月号で呼びかけ

- ・受付期間 令和7年12月～令和8年3月
- ・回答者数 53件

市からのお知らせ



未来の宮津市のために 「宿泊税」の検討を始めています

今後、人口減少が進む中で、地域の活力を保つには、観光やレジャーなどで宮津を訪れる「交流人口」の力が欠かせません。そのため、観光は、「外貨（市外からのお金）」を稼ぎ出す重要な産業であり、この力を未来のまちづくりに活かすことが求められています。

将来にわたり「選ばれる観光地」であり続けるため、そして観光と市民生活が調和したまちづくりを進めるため、新たな観光財源（宿泊税）の検討を始めました。



市民の「暮らし」を守り、
観光の「質」を高める。
その両立のために。

観光の
質 市民の
暮らし



宮津市の観光は、日帰り客が約8割を占めることから、観光客一人あたりの消費単価は近隣市町や京都市と比べると低い水準にあります。更なる消費拡大を図るために滞在時間を延ばすなど、観光の「質」を高めていくことが課題となっています。

一方で、観光客の増加は、交通渋滞や公共交通の混雑、ゴミ処理量の増加など、市民の皆さんの「暮らし」にも様々な影響を与えています。

現在、これらの課題対応に年間約7,400万円（令和5年度実績。国からの補助金や入湯税を除く）を、主に市民の皆さんからの税金（市税）で賄っています。

しかし、「宿泊への誘導（観光の質向上）」と「受入環境整備（市民生活との調和）」を両立させる取り組みを、既存の財源（市税等）だけで強化していくことは困難な状況です。

そこで市では、「観光の質」と「市民の暮らし」を守る新たな財源として、観光客の皆さんにご負担をお願いする「宿泊税」導入の検討を進めています。

Q 宿泊税とはどのような税金ですか？

A 宮津市内の宿泊施設に宿泊される方が、宿泊事業者に宿泊料と一緒に支払っていただく地方税です。

Q なぜ今、観光客からの税金（宿泊税）を検討するのですか？

A 観光施策や環境整備（ごみ処理、交通対策など）には多額の費用がかかります。そこで、サービスの「受益者」であり費用の「原因者」でもある観光客の皆さんに、「受益と負担の合理性」に基づき、応分の負担（宿泊税）をお願いすることを検討しています。



Q 税金は「何に」使われるのですか？

A 宿泊税は、「観光地の魅力向上」と「市民生活との調和」の両立を目指し次の取り組みに活用します。

1. 観光地の魅力向上 （宿泊の促進）

夜間観光の充実や「食」のブランド強化、歴史文化観光の推進など

2. 市民生活との調和 （受入環境の整備）

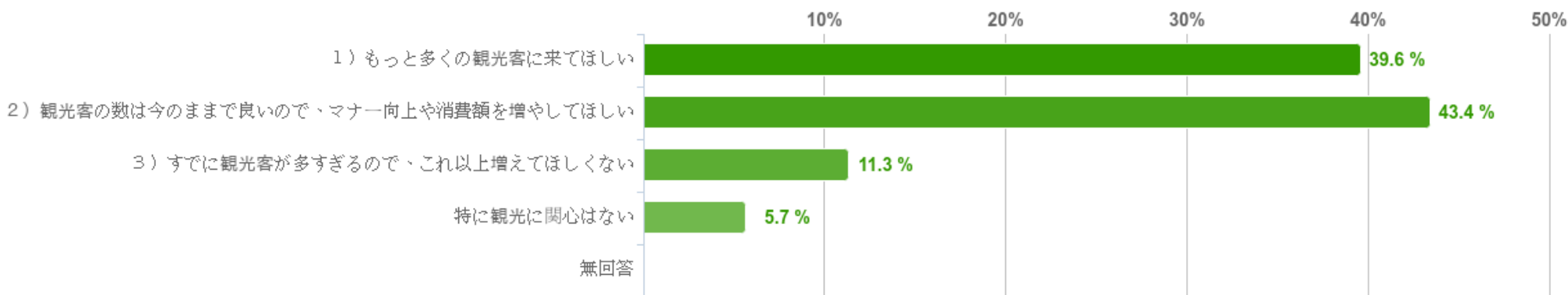
観光客のゴミ処理、景観保全、路線バス混雑緩和対策など

市民の皆さんのご意見をお聞かせください



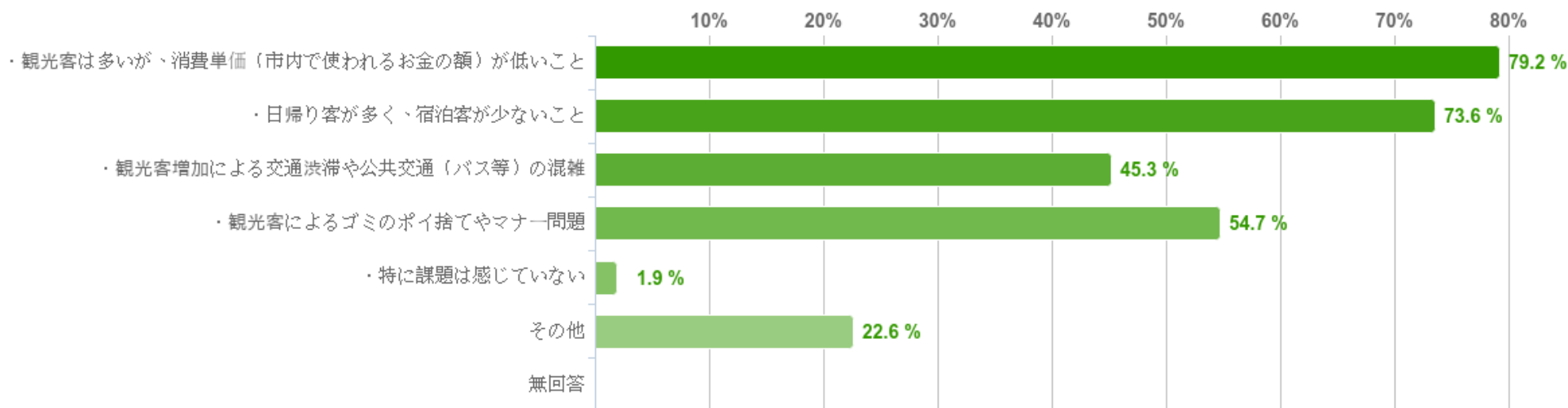
☎ 税務係 ☎ 45-1612
☎ 観光係 ☎ 45-1625

Q1：日本三景「天橋立」を有する宮津市は、多くの観光客が訪れる観光地です。あなたは、これからの宮津市の観光はどうあるべきだと思いますか？
(1つ選択)



「現状維持（マナー向上・消費増）」が43.4%、「観光客増加」が39.6%であり、8割以上が観光振興の継続を支持している。

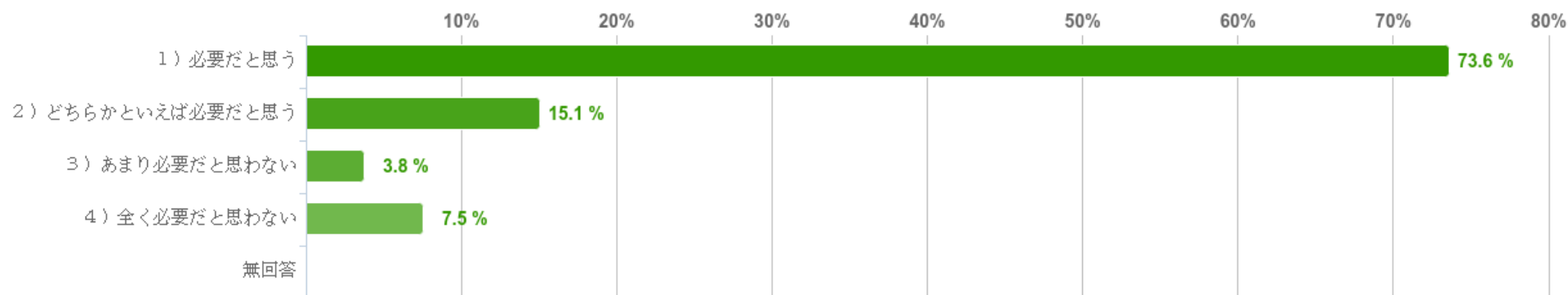
Q2：宮津市の観光について、以下のような課題があることをご存じでしたか？知っていた課題を教えてください。



消費単価の低さ」が79.2%で最多、次いで「宿泊客の少なさ」が73.6%であり、収益性の低さが広く認識されている。

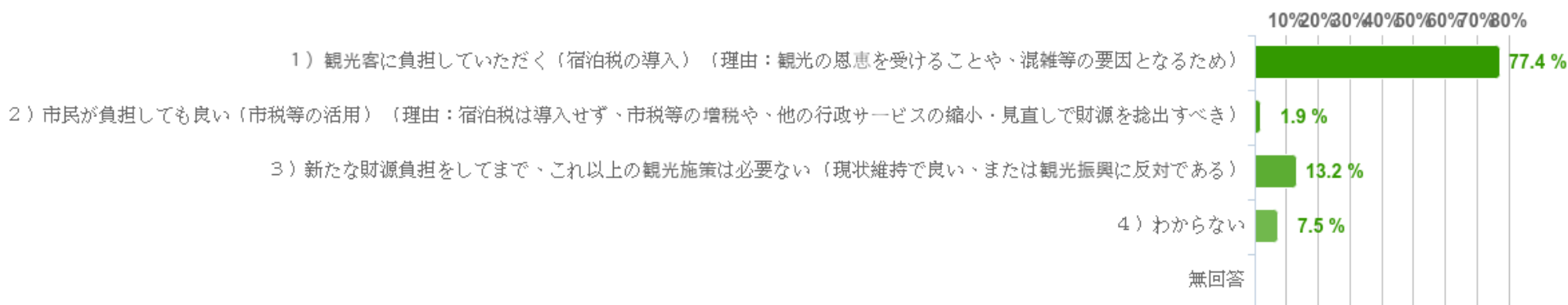
自由記述として、オーバーツーリズムによる交通渋滞への不満や、観光振興が人口減少抑制に寄与していないとする懐疑的な意見も確認された。

Q3：今後、これらの課題を解決するために、「観光の質を高める取り組み（夜間観光や食の魅力向上など）」や「市民の生活環境を守る取り組み（交通対策やゴミ処理など）」といった観光施策への新たな取り組みが必要だと思いますか？



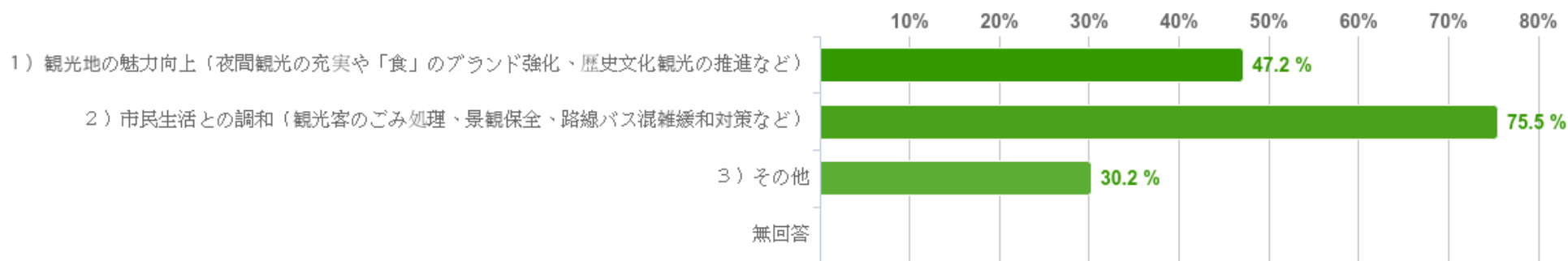
「必要」「どちらかといえば必要」の合計が88.7%に達しており、現状の課題解決に向けた変化を求める声が圧倒的である。

Q4：新たな観光施策を進めるためには、既存の予算に加え、新たに「年間約2億円」の財源が必要と試算しています。この財源の確保方法について、あなたはどのように考えますか？



「観光客に負担（宿泊税）」への支持が77.4%と高く、市民や既存予算への負担を避ける受益者負担の意識が鮮明である。

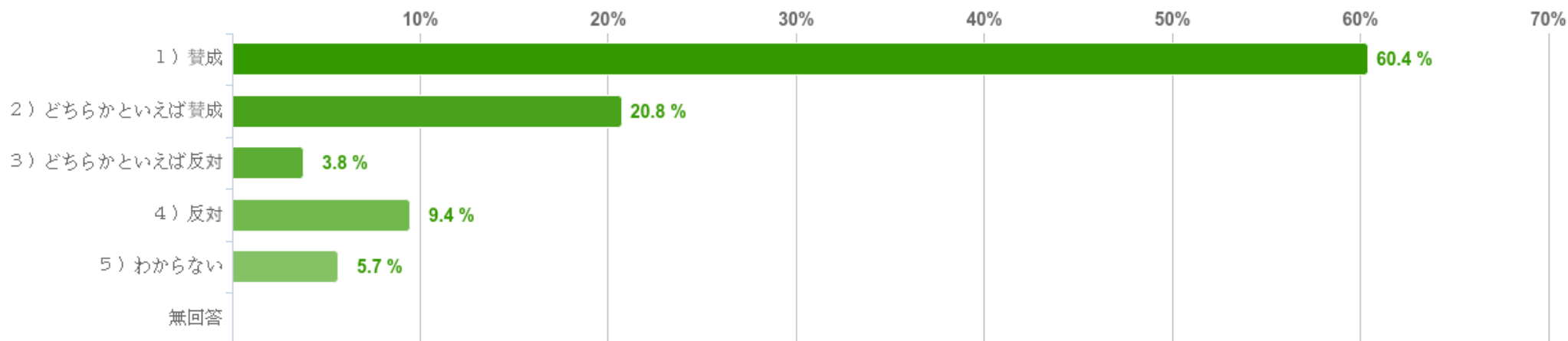
Q5：新たな財源として仮に宿泊税を導入する場合、その使い道として何を優先すべきだと思いますか？（複数選択可）



「市民生活との調和（ゴミ・交通対策）」が75.5%で最多であり、観光客増よりも生活環境の維持を最優先すべき状況である。

自由記述欄においても、公共交通（バス・タクシー）の利便性向上や、天橋立周辺以外の未活用エリアへの投資、インフラ整備を求める具体的な要望が多い。

Q6：宮津市における「宿泊税」の導入について、現時点でのあなたのお考えをお聞かせください。



「賛成」「どちらかといえば賛成」の合計が81.2%であり、財源確保の手段として高い合意が得られている。

Q7：自由記述

賛成派：「財源確保の必要性と、目に見える還元への期待」

- ・宮津市が観光地として生き残るためには新たな投資が不可欠であり、その財源としての宿泊税導入はやむを得ないとする意見が大勢である。
- ・ただし、「税金を取るからには、市民生活の向上（ゴミ対策、交通渋滞緩和）や、天橋立以外の地域への恩恵が実感できる使い道を徹底すべき」という条件付きの賛成である。また、宿泊事業者への事務負担軽減や、導入プロセスの透明性を求める声も目立つ。

反対派：「不公平感の爆発と、戦略の妥当性への疑念」

- ・最大の反対理由は「日帰り客が圧倒的多数（8割）の中で、なぜ少数の宿泊客のみに負担を強いるのか」という制度の不公平性である。
- ・宿泊客への課税は宿泊抑制に繋がり、観光振興の目的と逆行するとの指摘が極めて強い。
- ・「2億円」という予算設定の根拠が不明確であり、外部コンサル主導の既存の観光政策が成果を上げていないことへの不信感も根深い。
- ・まずは既存予算の効率化や、駐車場料金等の「日帰り客からも広く薄く徴収する仕組み」を優先すべきとの主張である。